中村俊定文庫
文庫 18
604

天明四

古今句集

吉今句集序

[illegible]

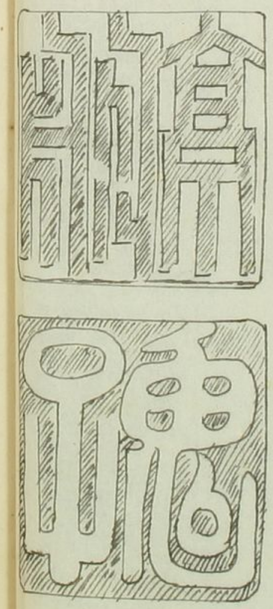
[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄と名のる

天明四辛巳八月



宮城県図書館

古今句集

春之部

元朝やうるもの ふきん冨士の山　京　宗鑑

見ハ〳〵ゝゝゝる花のよしの山　伊勢　貞室

たのつゝ篤や宮ゐ弁　望一

一僕とぼく〳〵あるく花見かな　江戸　季吟

名のはなのあかゆゝ山さゝゝ　湖春

梅の香や日の出ぬ山路哉　芭蕉

中村俊定文庫

春雨や蜂の巣はふる屋根の漏　芭蕉

古池や蛙飛こむ水のおと　仝

元日や晴るゝ雀のこゑかすり　江戸　嵐雪

鶯鳴初るこゑ　同　其角

花咲て むかしの一本の桜哉　大津　木節

義ちりて世上平ぐ李　重軌

正月成る庶て蕚しる二月かな　鳴滝　秋風

巣の中や世成弼しる　少年　峯嵐

うすくらと春の花の林の南　京　信徳

俤の春の成見ほとおし　専跡

蝶の羽乃厚くもちる春の水　沾津

飛石成狡ほとぬるん蛙の那　秋舟

夏百也第しるゝ　加賀　桐之

手水捨りを拾ゝ　母舟

白魚や石垣さゝ出清水屋　江戸　枳風

船路の喧嘩はちんゝ陸の那　遊也

水入れば人の背戸ちるや戸掃　加賀　希因

行春の砌ゝ日ふる種山さゝ　嬉水

うぐひすや障子あけふる立もさむ　白芽

一里行二里行原山さくらこの郡　三四坊

鶯の巣ー　さをつくりたりかな　肥後　里英

春雨ー　拙よの起るみよりの花の裏　西吟

裏雨や皆戸の音木の芽の声　信濃　自来

蝶飛や盃手の白へ散さしらさ　仝　爲光

多の巣の明ぬは昔散の散のふ　寺尾

清の木ふるつ音ー　足さー　山掬

無ふれ花の下　ちる流れ　信州　作都

北路

ちるより立やふ根の初のさを多　櫻良

鶯ー　庭の隅よ梨梅のうけ　仝

春雨や　下話　佛京良の君　蕪村

之日や　花　人と思ひ京原　仙臺　秋来

カ原ー　蝶夷の笠先行ー　尾張　曉臺

鶯や　ふふふ　ふ　袋　の礼　仙臺　麥蘿

大雪の　の　川のさや　明　夜　几圭

鶯のあちちとするやふ家の　浪巻　蕪村

ふ奥　西　ーかるま　朝の　羅川

其幸乃鐘と打ぬ夕涼　蝶夢

もの〻如の旅年月明の旅子　蕉知

ちりの〻や梅咲ちるの土俵日記　仙臺　乙二

ワタ〻ふ〻や痩て餌ふ、牧雀　伏水　御風

ふくさみよりよ世捨てや花の山　安藝　風律

京寺一海苦ニて女房訪ふ　京　移竹

麦畑一雁と打とへを尋ぬる　尾張　野水

文ハ訪ふ橋さし出す使の角　江戸　其角

四

夏之部

早乙女やよろれぬものいくはる手　来山

夏ふるる髪ぬぬるる暑可南　京　地の

赤ちの冠ぶ〻暑し山の京　竹翁

あるるみ平さ〻ぐりり蝸牛　同　周木

五月雨さ〻ふ名の京川ル京一　玄貞

眠ぬ毎家ハ動〻ありさの那　冨國

面ふ〻〻やの〻かふ乾物毋京　芭蕉

蓮の葉や茶の湯の水に浮ぶ屋敷の紙　芭蕉

いとゝ水や秋ハ色〳〵の草花　仝

屋敷はなれ蓮の花赤ふ咲かな　仝

立あり〳〵人ゑ絵を涼の那　去来

出る日や蚊を追ふて京時雨　其角

夕すゝよくゝて男子生まれ　仝

早乙女や泣子の方へ植ゑ残り　乗捨

かんこ鳥ゑし湖の飛て行　麥林

すゝ〳〵さや蚊帳直す朝きぬ　豊後　ぼん

蛸壺やたゝの夏草夏の月　芭蕉

皆作る菖蒲の枝きりの家　其角

暑き夜や山ゝ伏見の玉ところ　尚白

仏ゑ玉はとりつゝ寄かゝ　胡及

〳〵ふ事〳〵ゑ敷原田〳〵の家　紙隔

葉かゝれ人彼ゑ影やもり形ゑ　摂福原　梅史

暁の山岳ゑ〳〵ほゝ〳〵ゑ蚊　麥林

ゑき人の小袖ゑ少ゑや土用干　芭蕉

涼〳〵さ持ゑ山ゑ満ゑ多佛の家　去来

出不明
平さゝや　忘れ水に人たの刈　是水

市一の宮実ハ嵯峨の長者事　麥蘿

琴よ弾く吹くさゝや蓮苅舟　秋来

屋ごのかやとちの家に宿るあそび　也有

夏の月弱音一影やうす衣　作蔡知

故屋つゝむ門の乞食ハ切つるの　左文

垣一重菖蒲まさもよる鄙峠　麥邑

暑さ日や竹の老事事の下ゝ　孤有

千金の書ゝゝゝ杜丹の那　涼佛

書ゝ一里ゝゝやかむさ者　仝

痩馬のゝゝたる暑一菓一把　史部

郭公のゝゝゝの柿原山ゝ　樗良

法柿の美すりゝゝゝゝゝ　暁堂

かんこゝ峠やふる里あゝ　仝

須广公至あゝゝ一ゝ郭公　麥蘿

うつ鐘やあゝゝの家のかゝ（ヒ）　乙二

夏の山ゝ年年すゝゝゝゝゝ　名古屋　宰馬

みゝの秋や初めゝ出書物郭　不明

麦うゝや淀とあのしゝ神ゝ声　移竹

蚊きり火の故ふ連出除あるゝ布　螢鳥

京

赤布ハ下ゑの建ゝるゝ暑この那　田福

子や泣ん寄るの毋も蚊の吟む　嵐蘭

保ゝよまるゝ張りて涼も保　尚白

日の岡やたゞ八ゝ暑ゝ牛の舌　正秀

夕涼ゝてゝいのちハあ保ゝとの秋　眷茄

秋之部

月やあるゝ多ゝ必ゝ故ゝりの新法あ　貞徳

淡さゝ少ゝ在ゝのゝ魂すゝり　季吟

名月や(今)ゝ宵ゝ過ゝるゝもあゝ　信徳

志ゝ濃や名ゝ所ゝあすゝ保ゝ所　宗因

松の月枝ゝ魅ゝりゝ　来山

名月や池ゝ成めりてゝよゝすゝ　芭蕉

ゝゝゝ触木槿ゝ馬ゝ喰ゝ芳梨　今

出不明

鮎や日の[illegible]の[illegible]

秋の[illegible]ときぬ縄すれ　千代尼

稲妻やきのふは東ふく西　嵐雪

文月や[illegible]りはほ[illegible]娘の子　其角

牛飼ふ翁お酌[illegible]の糸　仝

[illegible]れて[illegible]萩の蔭　支考

名月や[illegible]の[illegible]ほの[illegible]　不角

目利[illegible]名[illegible]月[illegible]　木節

[illegible]ありて菓作[illegible]と思ひ[illegible]　如行

二水

同一灯残切竈みるハ長那[illegible]　木因

藁ふを敷もよ[illegible]れより　酔滴

掛[illegible]ゆ[illegible]き事山[illegible]この那[illegible]　如風

[illegible]さ[illegible]の苦[illegible]　洞水

ハ朔や町ふ行　灯の一ツ[illegible]　團水

あさの日や[illegible]の花[illegible]出来　杉風

舟[illegible]ふ[illegible]の芭蕉ふ　一晶

庫の琴[illegible]角ハ[illegible]り　乙由

出不明

月や[illegible]花唐

花さそふ波ふあうの礼て岸名ハう　任口

老果て己の少のあはれ　八十五翁　天海

夢のゝ名山の名残や庵の秋　文山

秋ふやさまのむのゝ有の声　千代尼

あよゝ紅や白木の弓ハ張ゝん　去来

いかつまや雪出て雲ハ入とゝろ　雁知

菓のはや丸ゝ臣を　ふゝ　仝

剪むゝ紅葉色ふゝ　秋来

秋風せかゝ成社　麦蘿

燈を聖まゝ酒ゝ　乙二

七夕や少し影さすきり戸　芦風

梶柳や母の住ハ　一向　楚川

柳ちるゝつちゝれの西ひの　白雄

望の月海と山とのちゝの　蕪村

さゝ秋や聞さゝ　生香　暁臺

やさゝこの和人ハ孫角力　京　几董

涼ゝを出雲秋とゝ　茶刈　守出

れて松の背我招小庵成

壇浦十日の篇の月見の系

頁　一ノ表角力取麻物かくりの系　蝶夢

秋の空澄るまゝ（三）十日の月　名古屋　蕪村

きゝ水やあゝしの庵の落葉　亜満

みよりの国より秋の空ある篇寺の山　伊勢　作者蔡

立出る秋の山屋や伏白ろし　鬼貫

ちるゝ紅や麻刈あとの秋の風　凡兆

越人

語り尽て河川くゝ榾火の系　麥蘿

嶋や師走八日も明ちのまゝ　乙二

冬ざれやきゝあき川の夕移　京　定雅

イメは狂る音の夜道の南　凡董

浦風や小家かゝ立て裏戸あり　秋東

磯千鳥足跡ゝ越ひゝり　蕪村

皮剥の業又ゝ面ゝ系枯野系　凡董

よハ〳〵と日の影重く枯野かな　加賀　麥水

多のかゝ石ゝ角ゝ旭ゝ　（カ）（ナ）　帝国の一市ノ

西ふけば東手負ある家ふく　蕪村

ちーこすや深山さそれのぬれ筏　暁堂

すが

ちりとりと日ふかひくあるこの山　作蓍知

長〳〵と川一すじや雪ノ原　化兆

さかりし木二日の月の吹ちるの　荷兮

ちりこすや内みせさるる人冬籠　其角

寂〳〵と砂ひを負ふ宮の門　去来

いさらは言へん年の暮れて　芭蕉

仏ちらさるるやさしや年籠　素龍

我る形ら供ふ夜の雪　とめ

鴨死やかし形ら妻の名　超波

又ふとふとふもとの初雪　超雪

色〳〵の雪紛ふ枯野の那　上野 無名氏

自雪や鉢ときく名を其之函　越人

雪ちるやかあるれ富士の拓湯　堺 丁一

蔵茶一ちく矢さ高く遠く小堤ル　信列 先芦

矢とハ志ら礼ぬ日のみ山の系　乞丁

の音れ管弟子ども旭この郎　麥語

みそさゝね志きりゐ〳〵日ゑゝり　路の　咨習

筋遠ゐ巻志〳〵（ベ〳〵）迄みる巨燈の音

〳〵寂夜の網代わかる浮木哉　其明

雪ゝ作や嵐ゝ毎ふゝそゝね　曉堂

冬木立志〳〵清き負の傾あゝむ　仝

涙ちとり壹の中よゝ帝ゝ生　仝

冬木立山ゐの孤ん〳〵日のへり　鶯知

已ゐ身のおゐもし〳〵ゐ生海嵐かれ　秋来

冬之部

言水

火の影や人〳〵寂支弼代ゐ

許六

嫁入の門も迄ゝ秋多ゐ

京

爲水

丹ゝ出〳〵降る志ゝ乳式

観水

山里や路中ゝ多ゐ人〳〵

伊

鷺助

路柳の元弼ゐれ〳〵冬木ゐ

道澄

壹見ゐハ彩人も部〳〵吉野山

遊〳〵

ゝ琴や皆女為ゐゝ　火

冬籠り此とし山　芭蕉

もがらしの音や枯尾花　仝

鰒汁や鯛も鱈のかまぼこ　仝

婦人とん美々麻の笠や東山　嵐雪

きりぎすや人の捨蝶無名の子　桃隣

尾頭のさだまらぬ生海鼠　去来

麻衣の外ふかし冬の月　毋斛

炭竈や麻の乙子夕煙　宋阿

飯壺の詩会ぶり命の毒　永吟

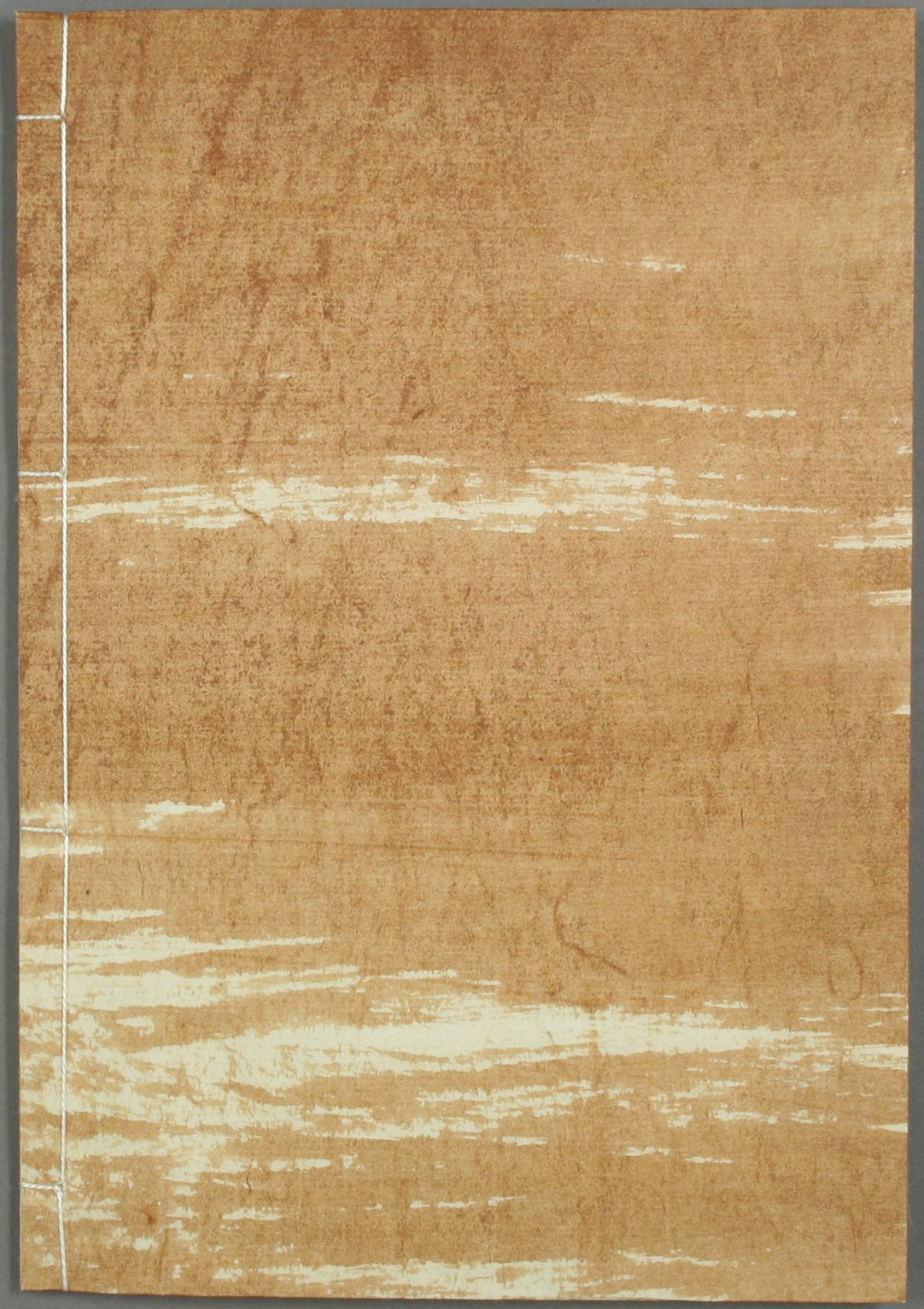
古今句集畢

洛陽蕉門書林

井筒屋庄兵衛

橘屋治郎

昭和十四年六月十六日寫校合了

原本 杉宇文庫

俊定藏